学校番号	1202

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新　政治・経済　（実教出版）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

国内政治や国際政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身につけさせる。

２ 学習の到達目標

１．広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深化させる。
２．現代の政治、経済、国際関係に関する興味・関心を引き出し、その客観的な理解をはかる。
３．現代の政治・経済に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養わせる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・現代の政治、経済、国際関係について関心を高め、それぞれの課題を意欲的に追究する態度を身につけている。 ・国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	・現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえながら公正に判断している。	・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、且つ集めた情報を主体的に選択し効果的に活用している。 ・学習を通して追究した過程や結果を、的確に表現することが出来る。	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査
	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	現代国家と民主政治	1．民主政治の成立 2．民主政治の基本原理 3．民主政治のしくみと課題 4．世界のおもな政治制度	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a:民主主義の歴史や基本的原理に関して、世界史学習と関連づけながら深い興味を抱いている。 b:西洋で発達した民主主義の原理と、日本の政治機構の仕組みとの関連を考察している。主要国の政治制度と日本の政治制度とを、比較しながら考察している。 c:社会契約説や権力分立といった民主主義の原理について、ロックやルソーといった思想家たちの資料を収集し、その内容を読み取っている d:社会契約説や権力分立、主要国の政治制度などに関して正しい知識を身につけている。	ワークシート
	日本国憲法と基本的人権	1．日本国憲法の成立 2．日本国憲法の基本原理 3．自由に生きる権利(1) 4．自由に生きる権利(2) 5．平等に生きる権利 6．社会権と参政権・請求権 7．新しい人権 8．人権の広がりと公共の福祉	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:日本国憲法の成立過程や国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった基本原則に対して興味・関心を抱いている。現実の人権問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。 b:大日本帝国憲法と日本国憲法を比較しながら、民主主義の実現を目指す憲法の必要性について考察を加えている。人権保障の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。 c:日本国憲法の成立や人権保障に関する情報を、様々な手段を使い収集している。人権問題に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 d:日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解している。人権保障に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。	定期考査 ワークシート
	日本の政治制度と政治参加	1．政治機構と国会 2．内閣と行政機能の拡大 3．公正な裁判の保障 4．地方自治と住民福祉 5．政党政治 6．選挙制度 7．世論と民主政治	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:国会、内閣、裁判所や地方自治といった日本の政治機構に対して、その仕組みや課題を追究する態度が見られる。民主政治の現実的な担い手である政党や、国民が参政する選挙について十分な関心を抱くとともに、主権者としての政治参加の在り方について客観的に考察しようとしている。 b:憲法条規上の国会、内閣、裁判所や地方自治の規定と、現実の三権の状況や中央と地方との関連などを的確に比較し考察している。 c:国会、内閣、裁判所や地方自治に関する情報を新聞などのメディアを通じて収集し、有用な情報を選択し、その内容を正確に読み取っている。 d:国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解している。日本の政党や政党政治について、一つの党派に片寄らないバランスの取れた理解を示している。	定期考査 ワークシート

1学期	現代の国際政治	1. 国際社会と国際法 2. 国際社会の変化 3. 国際連合と国際協力 4. 第二次世界大戦後の国際政治 5. 冷戦終結後の国際政治 6. 軍拡競争から軍縮へ	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:現代の国際社会における政治の動向に対して、関心が高まっている。安全保障についての考え方や、国家間の対立、民族紛争といった国際紛争の諸要因を意欲的に探究している。 b:国内政治と国際政治の違いを、現実の状況を踏まえて多面的に考察している。これからの国際社会における国際連合の在り方について、ポスト冷戦という新しい状況の中、様々な考え方を踏まえ公正に判断している。 c:現代の国際社会における政治の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 d:二つの大戦や冷戦といった国際対立の経験を通じ、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のための国際機構や国際法が発達してきたことを理解し、その知識を身につけている。核兵器と軍縮、難民問題といった今後解決すべき国際社会の諸課題について、的確な理解を示している。	定期考査 ワークシート
	日本の平和主義と国際平和	1. 平和主義と自衛隊 2. 日米安全保障体制の変化 3. 21 世紀の平和主義 4. 日本の外交と国際社会での役割	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ 	a:現実の平和主義にかかわる問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。 b:平和主義の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。 c:平和主義に関する情報を、様々な手段を使い収集している。平和主義に関して収集した資料を活用して、日本の平和主義についての課題を考察している。 d:平和主義に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。	定期考査 ワークシート
2学期	経済社会の変容	1. 資本主義経済の成立と発展 2. 現代の資本主義経済	○ ○	 ○	 ○	○ ○	a:経済の本質や資本主義経済の歴史、あるいはグローバル化した今日の世界経済といった、経済活動全般について関心が高まっている。 b:現代経済の特質について、経済体制の国際比較を行うなど多面的・多角的に考察している。 c:経済体制の現状に関する情報を、様々な手段を使い収集している。経済体制に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 d:資本主義経済の特質について的確な知識を有するとともに、グローバル化した現在の世界経済の現状に対しても十分に理解を示している。	定期考査 ワークシート
	現代経済のしくみ	1. 経済主体と市場の働き 2. 企業の役割 3. 国民所得 4. 経済成長と国民の福祉 5. 金融の役割 6. 日本銀行の役割 7. 財政の役割と租税 8. 日本の財政の課題	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論に対して関心を深め、理論との関連を踏まえながら現実の経済活動を探究する意欲的な態度が見られる。 b:家計、企業、政府の経済主体間の経済循環を、現実の経済活動と対応させながら考察している。金融や財政についての基本的知識をもとに、現実の金融・財政問題やその解決方法について、主体的に判断をしている。 c:国富やGDP、金融や財政などに関する統計資料を、各種白書などを利用して的確に収集している。収集した資料を活用して、金融・財政政策についての課題を考察している。 d:適切な価格決定や資源配分といった市場経済のもつ特性を理解するとともに、その限界についても考察を加えている。金融や財政に関する基本的な知識をもとに、金融改革や財政改革といった日本経済の課題に対する十分な理解を示している。	レポート 振り返りシート

2学期	現代の日本経済と福祉の向上	1. 戦後復興から高度経済成長へ 2. 安定成長からバブル経済へ 3. 転機にたつ日本経済 4. 中小企業と農業 5. 消費者問題 6. 公害防止と環境保全 7. 労働問題と労働者の権利 8. こんにちの労働問題 9. 社会保障の役割	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:第2章で学んだ理論的内容を前提として、日本経済が置かれている現状に対して深い関心を抱いている。高度成長から安定成長バブル経済からバブル後の不況といった戦後日本経済が歩んだ流れを追究しようとする意欲的な態度が見られる。 b:戦後日本経済史との関連の中で、労働問題など日本経済の課題を考察している。経済発展のための効率性の追求と、国民福祉の向上で求められる公正さとの関連を、労使関係や社会保障を題材として的確に判断している。 c:戦後日本経済史に関する史料を、様々な文献から幅広く収集している。公害や労働問題、社会保障といった様々な課題に関するデータを白書類から収集し、課題解決の手段として活用している。 d:公害、労働問題や社会保障といった日本経済の現状と課題に関して十分な知識を有するとともに、課題を解決する様々な方法に対して理解を示している。	定期考査 ワークシート
	現代の国際経済	1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ 3. 第二次世界大戦後の国際経済 4. 国際経済の動向(1) 5. 国際経済の動向(2) 6. 発展途上国の諸問題 7. 経済協力と日本の役割	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。商品、労働力、資本、情報がボーダレスで移動するなど、国際的な相互依存関係が深化する国際経済の特質を意欲的に追究している。 b:現代の国際経済の動向から、課題を見いだしている。経済のグローバル化の動きに対して、商品や労働力、資金の移動などから多面的・多角的に考察するとともに、競争原理を前提としたグローバル化の弊害についても的確な判断を示している。 c:現代の国際経済の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。収集した資料から、グローバル化の進展など国際経済の特質、国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての情報を主体的に選択して活用している。 d:自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど、国際経済に関する基本的な知識を習得している。自由貿易を前提とした戦後国際経済の流れを理解し国際通貨基金や世界貿易機関などの仕組みに関する知識を有している。グローバル化が進む国際経済の動向の中で、地域的経済統合や南北問題の新たな局面を理解している。	定期考査 ワークシート
3学期	1～5節	1. 地域社会の変貌と住民生活 2. 産業社会の構造と中小企業 3. 農業と食糧問題 4. 雇用と労働をめぐる問題 5. 少子高齢社会と社会保障	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考察しようとしている。 b:現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。 c:現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。 d:地域社会の変貌と住民生活、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題、雇用と労働をめぐる問題、少子高齢社会と社会保障など、現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
	6～10節	6. 地球環境問題 7. 地球環境と資源エネルギー問題 8. 人種民族問題 9. 経済格差の是正と国際協力 10. 国際社会における日本の立場と役割	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し望ましい解決の在り方を客観的に考察しようとしている。 b:国際社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。 c:国際社会の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。 d:地球環境問題、地球環境と資源・エネルギー問題、人種・民族問題、経済格差の是正と国際協力、国際社会における日本の立場と役割など、国際社会の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。	レポート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現

c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。